

時代とともに、 働き方も進化させて います。



執行役員 製造本部長 山本 直樹 さん

ENDO 遠藤工業株式会社

所在地: 燕市 業種: 製造業 従業員: 194人

業務内容

荷役機器・給電機器・環境機械の3つを事業とする産業用機械・機具メーカー。
代表的商品「スプリングバルancer」は国内90%以上のシェアを誇る。現在48
カ国に納入実績があり、国内外のものづくりメーカーを支えている。

当社では、早くから「全員が休暇を取得しやすい職場づくり」に力を入れています。この実現には2つのポイントがあります。

1つ目は、急な休みや長期の休業を複数の人でカバーできる「多能工化」の推進です。一人で多数の業務ができる社員を育成するとともに、特定の人しか業務が分からない「属人化」が起こらないよう対策を進めています。例えば、2016年にデジタルピッキングシステムを導入し、ベテラン社員にしかできなかった細かな部品の入出庫作業を新人でもできるよう改善しました。業務負担の軽減に加え、作業の正確性が増しミスも大幅に減少。今では部品クレームはほとんどありません。また、詳細な作業手順書を作成し、更新も定期的を実施。知識や技術を共有し、一人ひとりの技術力向上にも努めています。

2つ目に、生産量が増えても余裕をもって対応できる業務の効率化です。各工程で作業を分析、製造ラインの見直しや治具(じぐ)・作業台の工夫などさまざまな改善を行い、作業時間短縮に取り組みました。その結果、生産量が増えたにも関わらず、残業や休日出勤が減り、全員が休暇を取りやすい職場に近づけることができました。

仕事とプライベートの両立には、周囲とのコミュニケーションも欠かせません。当社も、以前は社員同士の間にごく壁がありました。そこで、毎日の朝礼を当番制にして話す場を作ることに。今では自然に会話が生まれ、社員同士なんでも話せる明るい職場です。加えて、上司から部下に積極的に声掛けをするように意識しています。言いづらいことも、聞かれると話しやすくなるもの。悩みを相談しやすい雰囲気づくりは、上司の務めの一つだと思っています。

ひと昔前は、家事や育児は母親や祖母がするのが当たり前でしたが、核家族化が進んだこともあり、仕事や家事育児を分担している夫婦が大半を占めるようになりました。企業は、時代によって変わる価値観に合わせて常に変化していかなければいけません。当社はこれからも、全員が働きやすい会社を目指して環境や働き方を柔軟に変え、進化し続けていきます。

こんな取組を推進しています!

取組 1

多能工化で柔軟な生産体制を実現

個人のレベルを上げながら、個人に負担が掛からないようなシステムに

取組 2

熟練工のノウハウを共有

業務のマニュアル化を進め、作業量の平準化・個人の能力向上を目指す

取組 3

育児休業、看護休暇の充実と周知

制度の充実はもちろん、上司の声掛けで取得へのハードルを下げる

イクメン社員

小林 亮平 さん
(29歳)



目標は毎日定時退社! 子育ても仕事も全力投球です。

妻が里帰りから戻ってきて2カ月ほど経ちました。今は仕事量を調節してもらい、ほぼ定時で退社。育児も家事も、やらなければいけないことが本当に多くて、毎日「早く帰らなきゃ」と感じています。

帰宅後は、子どもと一緒に風呂に入ることから、私の「イクメン」の任務がスタート。入浴の後は遊んだりあやしたりして、寝かしつけます。子どもが寝てから妻が作ってくれた夕飯と一緒に食べて、私たちも就寝。夜は3時間おきくらいに起きて、授乳やオムツ替えを手伝います。翌朝は子どもの面倒を見ながら朝食を食べ、仕事へと向かいます。

子どもが生まれてから、時間内に業務を終えるという意識が強まり、仕事への向き合い方も変わりました。いっぽうで妻が育児休業中の今は、私がしっかり働いて家族を支えなければとも感じています。当社は充実した制度と活用しやすい環境が整っています。私はまだ育児休業は取得していませんが、必要な時にしっかり取れるという安心感があるのは、本当に心強いですね。

2018年3月発行



私たちはイクメン応援宣言企業です!

新潟県では、男性労働者が育児に参加しやすい職場環境づくりに積極的に取り組む企業を「イクメン応援宣言企業」として登録しています。

もっと詳しく知りたい方は

にいがたイクメン応援宣言



<https://niigata-ikumen.jp>